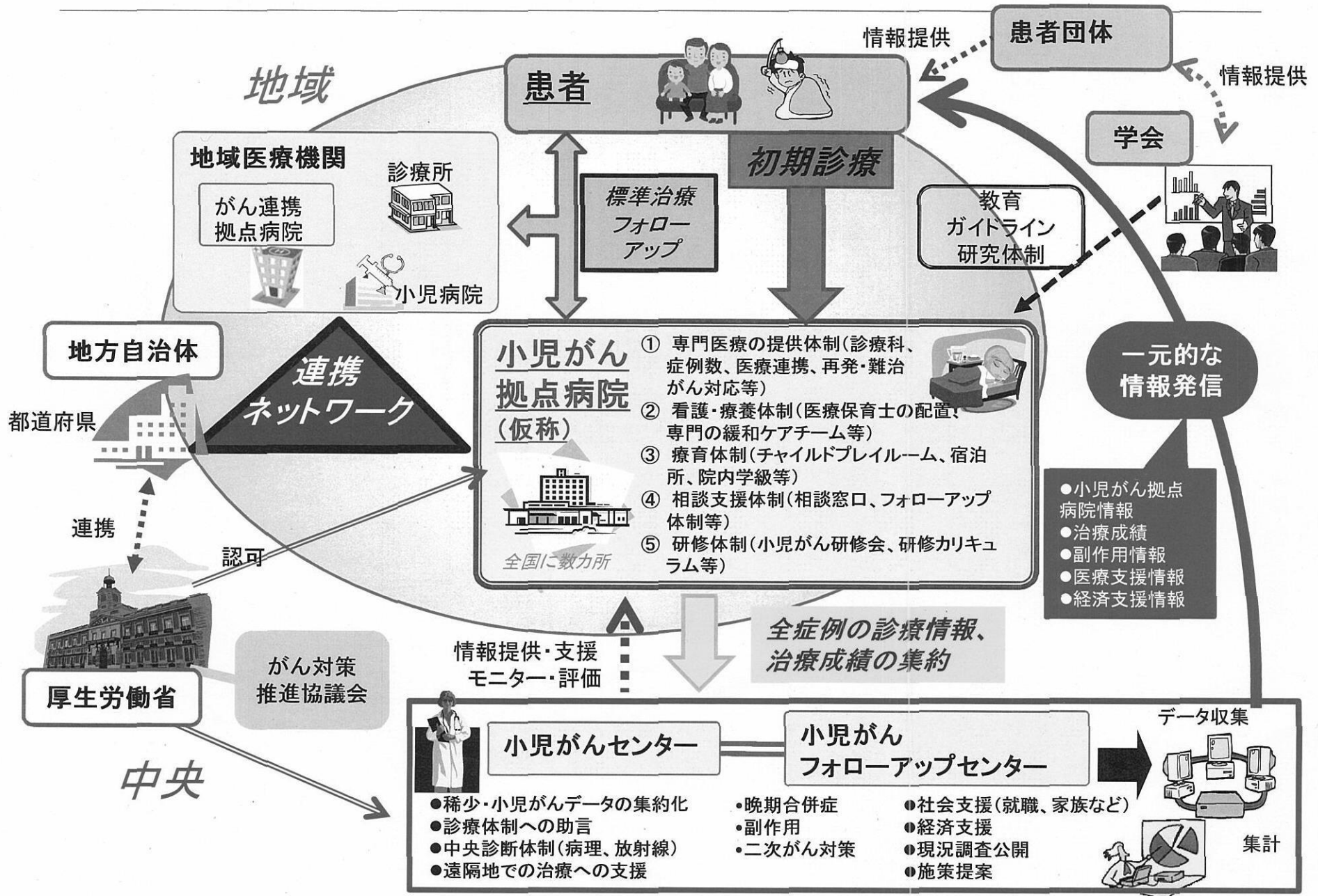


小児がん診療体制の在り方等について(案)



参考資料

主要国の小児腫瘍診療施設規模の比較 (造血器腫瘍と固形腫瘍を合わせた報告数)

国名	日本	アメリカ合衆国	ドイツ	フランス	イギリス *2	
小児人口(0～14歳) (統計年)	1,752万人 (2005年)	6,076万人 (2004年)	1,204万人 (2004年)	1,116万人 (2003年)	1,089万人 (2004年)	
診療施設数 (グループ、調査年)	240 (日本小児がん学 会*1, 2005-2007)	231 (COG, 2003-2005)	92 (GPOH, 2002-2006)	33 (SFCE, 2006)	22 (MRC-CLWP , -)	
1施設当たりの小児人口	7.3万人	26.3万人	13.1万人	33.8万人	49.5万人	
年間疾患登録数別施設数 (ただし、アメリカとフランスは 臨床試験登録数)	50～	2	9	9	8	22
	40～49	4	6	6	3	0
	30～39	3	16	6	8	0
	20～29	22	28	12	7	0
	10～19	66	61	19	5	0
	5～9	49	68	11	1	0
	1～4	54	37	19	1	0
	<1	40	6	10	0	0
年間疾患登録数 20 例以上の施設の割合	13%	26%	36%	79%	100%	

出典：堀部敬三、他、わが国の小児造血器腫瘍診療施設の実態 日本小児科学会雑誌 113: 105-111, 2009. 他.

*1 日本のデータは、日本小児がん学会／日本小児血液学会 調べ

*2 イギリスでは、がん患者は登録され、小児がん患者は小児がん診療センターにて診断、治療を行う制度が整備されている。